



縄文の炎 藤沢野焼祭2018 参加報告

縄文文化研究会会員 廣瀬 欣孝

昨年に引き続き、8月11日～12日の2日間に渡り、東北芸術文化学会 大木監査役と共に藤沢野焼祭に参加した。昨年の野焼は降雨の中での実施となったが、本年度は一転快晴での野焼となり、焼成条件は昨年に比べ非常に良好であった。しかしながら、会場付近では前日にゲリラ豪雨に見舞われたとのことで、当日の会場表土はかなり含水しており、野焼中に地中からの水蒸気が噴出する可能性が高く、注意が必要な状況であった。以下詳細について報告する。

1. 審査結果

大木監査役 No.41 作品名：縄文の魂源

1次、2次審査通過

最終結果：藤沢町芸術文化協会長賞（各団体賞） 入賞

廣瀬 No.10 作品名：線刻紋縄文深鉢 四季神祭

1次審査通過、2次審査落選

最終結果：館ヶ森アーケ牧場賞（スポンサー賞）入賞

No.11 作品名：遮光器土偶宮城泉沢 結果：選外



大木監査役

No.41 （上、右）
作品名：縄文の魂源

廣瀬

No.10 （上）
作品名：線刻紋縄文深鉢 四季神祭
No.11 （右下）
作品名：遮光器土偶宮城泉沢

2. 野焼焼成状況

大木監査役による昨年度の参加報告の通り、本野焼祭では盛り砂により土手を作ることで簡易的な焼成窯を形成し、その中に作品を設置して野焼焼成する方式を取っており（写真1、図1）、事前に焚火などで窯の地表面を予備乾燥させることなく行うことから、地表面からの水蒸気対策としてガスコンロ用アルミ防熱板を地表に敷き、更にその上にコンクリートブロックを設置し、作品はその上に設置することとした（写真2）。アルミ板は水蒸気対策と共に地表に吸収される熱を作品側に反射し戻す効果を狙い、コンクリートブロックは作品→アルミ板→地表と伝導して逃げる熱の対策として設置した。また、空気の熱伝導率は低いことから耐火煉瓦等の全固体セラミックブロックでは無く、空隙の多いコンクリートブロックを使用した。

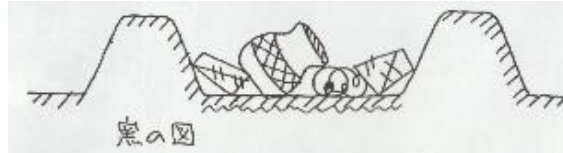


写真1、図1



写真2

野焼祭のスケジュールは、

8/11	18:00	火入れ
	23:00	火止め
8/12	7:30	窯出し（10:00～ 作品審査）

であり、火入れ後は土手で藁を燃やして藁灰を作り、それを作品に被せる作業（約30分）を行う（図2、写真3～4）。

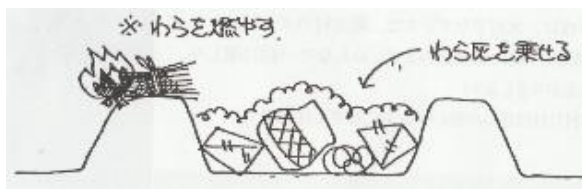


図2



写真3



写真4

次に土手に積んだ薪に点火し、窯内の作品の炙りと共に燠が出来たら徐々に窯の中へ落として行き、外縁から炙りを強めてゆく（写真5～6）。今回の炙りの時間は凡そ1.5時間程度であった。



写真5



写真6

その後、薪を窯に被せ本焼きに移行（写真7～10）し、全ての薪が無くなるまで継続する。今年度は22:00前に全ての薪を入れ終え、その後、翌日の窯出しまで放置となった。



写真7



写真8



写真9



写真10

写真11は22:30の状況。火勢は収まっているものの、未だ燐が青白い炎で燃えており800℃以上を保っているものと推測される。
写真12は翌日5:30の状況。火は落ちているが、未だ100℃以上あり、耐火手袋を着用しての窯出しを行った。
写真13～14は窯出し後で、冷却済の状態。



写真11



写真12



写真13（左：大木監査役作「縄文の魂源」）

写真14（右：廣瀬作「線刻紋縄文深鉢 四季神祭」
「遮光器土偶宮城泉沢」）

3. 審査

作品は参加カテゴリー別に決められた区画へ搬入する（我々は「一般」の区画）。審査員により一次選考され、入選作品は審査会場中央の青線で区切られた区画へ移動される。その後、二次審査が行われ、基本的に二次選考通過作品が入賞となる。但し、二次選考に進めなかった作品の中から数点が一般投票によって「みんなが選ぶのやき賞」に入賞となる。当方の作品は二次選考に進めなかったが、何故かスポンサー賞（館ヶ森アーク牧場賞）入賞となった。

写真15～16：一次選考、写真17～18：二次選考、写真19：入賞作品決定、

写真20：最高賞「塩野半十郎大賞」（千松自治会「ハンパね～千松犬」）



写真15



写真16



写真17



写真18



写真19



写真20

<作品審査委員>

審査委員長 金子 賢治（茨城県陶芸美術館館長）

副審査委員長 辻 けい （現代美術家）

審査委員 塩野 毅（広島大学教授） 佐藤 友紀恵（美術家）

本田 健（画家）

及川 健夫（洋画家）

岩淵 健彦（洋画家）

本間 伸一（陶芸家・藤沢焼窯元）

4. 線刻紋縄文深鉢 四季神祭 焼成結果

前述の通り、本年度は焼成条件が非常に良かったことから、それが作品にも反映された結果となった。
直立させて焼成する場合は薪の投入により破損のリスクがあるが、焼成の際に熱が均等に印加され易いことから、熱の不均衡印加により引き起こされる不均一収縮による破損のリスクは低い。今回は後者のリスクを嫌い、前者リスクを選択したが、破損無く無事に焼成することができた。

本作品の題材は宮城県蔵王町二屋敷遺跡出土縄文後期深鉢であるが、本体製作後の彩文時に、その紋様は4人の人間が踊る姿では無いかと直感し、「線刻紋縄文深鉢 四季神祭」と命銘した。4人＝四季に通じることからの命銘であるが、奇しくも焼成後には春夏秋冬をイメージさせる発色がそれぞれの人物様紋様部に現れ、偶然とは言え何か不思議なものを感じた。尚、赤の発色は胎土からであり、黒は燃料（薪）の不完全燃焼による炭化物、白（灰）色は台座としたコンクリートブロックから噴出したアルカリ系の成分の付着と思われるが、正確には蛍光X線などによる科学分析が必要である。



写真21～24：焼成前



写真25：春

写真26：夏

写真27：秋

写真28：冬

上部より赤、黒、白の3トーン
雪が解け、天候も徐々に
良くなり日差しに春を感じる
イメージ

赤が最大に発色
夏の強い日差しを感じ
させるイメージ

赤が流れて行き、徐々に黒と
白が多くなる
夏が終わり、秋晴れの後に
雪がちらほらと降るイメージ

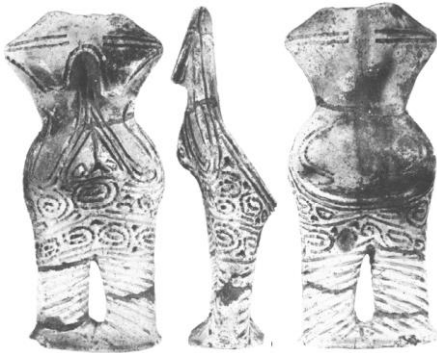
上2/3は黒、下1/3が白
日差しは少なく長い冬が
到来したイメージ

次に、二屋敷遺跡出土土器の線刻紋様が踊る人だとすると、それはどのような人物か？を推測してみる。勿論、縄文時代は歴史時代ではないので確証を得られる歴史的証拠は無いのであるが、その紋様形状は山形県舟形町西ノ前遺跡出土の国宝土偶“縄文の女神”に似ていると感じられた。屋敷遺跡出土土器の作られた時代は後期前葉であり、西ノ前遺跡の土偶（中期中葉）からは下るが、この土偶に類似する意匠を持つ土偶は山形県から宮城県（最南端は福島県）の広範囲で出土していること（図5及び写真29～35参照）から、これらの土偶の出土地域には、何らかの共通した宗教的観念が存在していた可能性が高いのではないかと感じられる。この推測に基づくと、そうした信仰が、時を経て継承されていた可能性があるのではないかと想像される。

以上の仮説を肯定すると、二屋敷遺跡出土土器の線刻紋様は、縄文の女神4人が4本の円形に配置されたウッドサークルを囲み祭りの儀式を行っている様子を写したのではないと思われる。その手には木製の輪が持たれ、その輪には風にたなびくりボンのようなものが結ばれており（もしくは、女神が頭部に被った輪状のものに結び付けられた鹿踊りのような羽飾りの様なものだったかも知れない）、脚や腰を振りながら踊っていたのではないだろうかといった推測が湧き上がってきた。



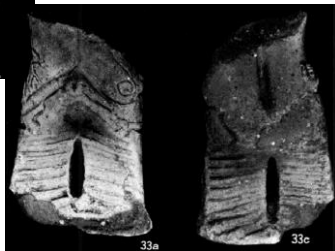
山形県最上郡舟形町
西ノ前遺跡
国宝 縄文の女神



山形県最上町水木田遺跡



山形県米沢市ノの上遺跡



宮城県蔵王町
谷地遺跡



宮城県仙台市上野遺跡



宮城県刈田郡七ヶ宿町小梁川遺跡

写真29～35：山形県から宮城県で出土した“縄文の女神”に類似する土偶

6. おわりに

以上、簡単ではあるが、縄文土器紋様の解釈を試みたが、他方、パプアニューギニアでは今でも縄文土器のような紋様を持つ土器の製作が行われている。紋様の多くは自然やその精霊を表すものだが、極端に抽象化されており、一見しただけではその意味を理解することは困難である。また、現代アイヌの職人が製作する民芸品にも同様な紋様が刻印されるものが見られるが、同じく抽象化されており、その意味の解釈は困難である。自然の全てに神（カムイ）が宿り、その姿を正確に模することは畏れ多いことから抽象化するのだと言うが、同様の観念が縄文時代にも存在していたのではないだろうか？

上記のような現在に辛うじて残存している古代から続いていると思われる信仰を参考に、実験考古学的アプローチにより実際に出土した縄文土器をトレースしてみることで、発掘報告書の図版を見ているだけではなかなか気付かないことが見えてくる。そして、抽象化された紋様の意味を自分なりに読み解くことで、現代のモダンアートにも通じるような感性を鍛えることができるのではないかと感じている。今後の製作活動においても、こうしたアプローチによって、更に縄文文化の理解を深めてゆきたいと考えている。



写真5：西ノ前タイプ土偶関係遺跡分布図
(<http://venus.funagata.info/>)

以上

廣瀬 欣孝

縄紋文化研究会 会員

縄紋文化研究会 (HP) : <https://www.jomonbunka.com/>

縄紋文化研究会 (facebook) : <https://www.facebook.com/縄紋文化研究会-1667063390041869/>

藤沢野焼祭公式HP : <http://noyaki.net/>